

◇平成 21（2009）年6月19日 文教市民委員会
学校経営推進事業について

No.10 灰垣委員

まず1つ確認をしておきたいのですが、本会議の中で、この予算を1つの項目というか事業に特化して絞って活用するような、そういったご意見があったようではございますけれども、もともとこの学校経営推進事業というのは、目的といいますか、各学校ごとの課題や特徴みたいなものをまず定めて、その課題があればそれを解決していこうと。また、特徴、伸ばすものは伸ばしていこうというような、学校ごとの主体性というか、それがあって、保護者または地域の住民の方たちに説明責任を果たしながら、信頼と協力といいますか、これをもとに進めていくような、それで特色ある学校づくりということを目的としたプロジェクトであるというふうに思っています。これをまず答弁をいただきたいと思います。

それから、今回、もともと25万円、これ、3年間してこられて4年目で75万円という、プラス50万円の予算がつけられるわけではございますけれども、50万つけることによってどう拡大されるのか、それがどう生きてくるのかということをお聞きします。

3点目は、改めてお聞きしたいのですが、校長先生の裁量権という、校長先生が中心になるわけではございますけれども、当然、運営して、企画するのは1人じゃないと私は思うんです。そういったときのスタッフといいますか、組織といいますか、そういった体制はどうなっているのか、この3点をまずお聞きいたします。

No.11 久保学校教育室参事

まず、1点目ですが、学校経営推進事業というものにつきましては、委員からのご指摘がございましたように、各校の企画書に沿って、特色ある教育活動を支援することにより、学びの充実を図ってまいりたいといったものでございますので、学校ごとに工夫した活用ができるといったものであるというふうに考えております。

2点目の、今回の拡充によりまして取り組みにどのような充実が見られるかというようなことですが、これにつきましては、従来から実施してまいりました学校経営推進事業のねらいを踏まえて、各校の学習指導上の課題や生徒指導上の課題の解決に向け、より重点的に取り組みを進めることを目的といたしております。具体的には、備品購入費で校内LANをより効果的に活用できますように、教材の提示装置やデジカメ等、コンピューターやプロジェクター関連の視聴覚機器を購入する学校が多くなっております。そのほかに、報償費では、授業研究のための講師招聘や総合的な学習への外部指導者を充実させております。また、放課後学習室や繰り返し学習等に必要な指導用図書や教材印刷用紙等の消耗品の購入を予定している学校もあります。このように、教材や教具、備品等を重点的

に整備することによりまして、既に各校が取り組んでおります授業改善、放課後学習、回復学習等の子どもたちの学力を高める取り組みの一層の充実につながるものというふうに考えております。

3点目ですが、各校の推進の体制につきましては、校長や教頭、首席教諭、主任等の教職員の代表も含めまして、各校では推進委員会や企画委員会等と呼ばれます組織を構成いたしまして、校長のリーダーシップのもとで、学校全体の教育活動や研究活動等の企画や運営を行っております。また、職員会議や学年、教科、校務分掌ごとの会議等で具体的な内容について検討をしながら、取り組みを進めております。

以上です。

No.12 灰垣委員

学校経営という名称がついているわけですから、やはり学校ごとにそういう特色のある取り組みをするというのが非常に重要なことだと思っていますので、教育委員会が中心となってしていく、そういった事業もあるとは思いますが、学校ごとに、3月の議会でも言いましたけれども、競い合うような、そういったことも大事だというふうに思っています。

2問目ですけれども、これ、毎年更新というか、企画を立てて、先ほどの宮本委員の答弁にもありましたけれども、毎年企画を立ててそれを実行していくということを考えたときに、今回の府の事業の補助は2年間に限られていますので、75万円確保できるのは2年間ということを考えたときに、2年スパンで1つの計画を立てて企画をして、2年後に結果を見るというような、そういったことは考えなかったのかなということを1つお聞きしたいのです。

それと、3年または5年という、そういったスパンでも考えてもいいんじゃないかなというふうに私は考えたのですが、校長先生とかがかわってしまうということも考えられます。特に、ことしも小学校では41校のうち15校に校長先生が新任で来られたり、かわられたりというのがありますし、中学校においても10校ですか、校長先生がかわられています。そういうことを考えたときに、校長先生がかわって、それにそういう影響はないのかということを2問目にお聞きしたいと思います。

No.13 久保学校教育室参事

まず、1点目につきましては、学校経営推進事業では、学校運営に対する校長の方針を踏まえまして、企画書が提出をされております。今回の市町村支援プロジェクト事業の活用に当たりましては、2年間の事業であることから、できるだけ早く予算化をしまして、実際の取り組みに活用できるようにすることが必要だという判断をいたしまして、今回の6月議会での補正をお願いをしたといったことになっております。

したがいまして、府の事業内容や府の補助対象校の確定をした後、短い期間での準備というふうになりましたことから、2年間を見通した計画を作成するといったところまでは至りませんでした。しかしながら、各校では、年度末に取り組みのまとめを行いまして、改善点を次年度に生かすよう努めておりまして、こうしたことで、学校としての組織的、継続的な取り組みとしては確保できているものというふうに考えております。

委員からもご指摘がありましたので、この趣旨を踏まえまして、中期や長期の展望を持って、各校の取り組みを進められますよう、今後も指導、助言をしてまいりたいというふうに考えております。

次に、4月に新しい校長というふうなご指摘ですけれども、予算編成の関係から、先ほどもお答えしましたように、本事業の予算の計画につきましては、年度の途中に各校から提出を求めるといったことになっております。学校におきましては、いわゆる世代交代の時期を迎えておりまして、校長の入れかわりも多くなっております。新年度に校長がかわった場合におきましても、校長会と協議をしながら、必要に応じて学校間で予算費目を調整をし、年度初めに提出されます最終的な計画書にそういった変更について反映をさせるというふうなことで取り組んでおりますので、よろしく願いいたします。

No.14 灰垣委員

検討していこうかというご答弁でしたので、ぜひ考えていっていただきたいなと思います。単年度ごとに事業の目的を達成するというのもなかなか難しいものもあると思いますので、非常に個人的なお話で恐縮なんですけれども、今、私の娘が高槻市の中学校で教育実習を受けてまして、3週間、きょうが最終日になるのですけれども、非常にお世話になっております。幾つか学校現場で経験したことで、いろんな感動を持って毎日帰ってきてますけれども、その中で1つ紹介したいのが、朝の読書運動をその学校は一生懸命やってらっしゃいまして、8時半にぴったり皆さんが席に着いて本を読むと。10分間、それで落ちつき、そして授業にすっと入ると。これを感動してました。

学校図書というのも蔵書、これも非常に重要なことだとは思いますが、読書離れ、活字離れということ考えたときには、ハード面の充足も大事ですけれども、ソフトの部分というか読書をする習慣づけというのには、朝の読書運動というのも非常に重要だというふうに、改めて子どもの話を聞いて思ったのですけれども、いずれにしましても、2年間で75万円という補助金は終わってしまう、運営費は終わってしまうので、その後、間違いなく、そのままいけば縮小される、23年度からは縮小されるような形になります。当然、この2年間の3倍の予算に対しての成果も求めたいところですが、3月の議会でも部長のほうから、その後、拡大をしていきたいという話もありましたので、しっかりと2年後のことも考えながら、この2年間の運営をお願いしたいということをお願いいたしまして、質問を終わらせていただきます。

